# 塩の道で発見したお宝は？

## 文代峠周辺

奥西川の有宮神社から少し峠寄りの道端に、「塩の道保存会」の案内板が立っていた。「ここから未整備なので、塩の道を歩かれる方は香北・赤岡線を通ってください」と掲示してあるのは、これから先が「塩の道」として最大の難所なのであろう。昔なら追剥が出そうな薄暗い樹間をつづら折りにあがった。途中、いくつかの「塩の道」を確認しつつ、連続のヘアピンカーブに後部座席で空ブレーキを踏み、四肢が硬直、冷や汗をかいた。

急に目の前が開けた。ここが文代峠！

赤色の奉納旗が鮮やかに風になびき、小さな祠には馬頭観音が鎮座されていた。60㎝ほどの自然石に浮き彫の観音像の宝冠は、確かに馬頭を頂いている。

カメラのフラッシュ不能で肝心の馬頭部分が暗く、窮余の一策。女性編集員に、「化粧用コンパクトを貸して」と言えば即座に、馬頭観音に光が当たった。

一般的に木彫りの馬頭観音は憤怒相が多いが、この観音様は穏やな優しい慈悲相のお顔。前面に「嘉永元年八月十七日」と刻銘があり、江戸時代末期に建立されたものだろう。

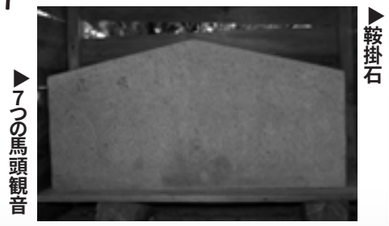
馬頭観音の信仰は、平安時代からという。山間の人々には身内のような牛馬の無事息災と、死後の冥福を祈り、重ねて身辺の人々の苦悩救済に祀られてきた。

その昔、地域産業の中心だった赤岡と物部郷を結ぶ交易の往還道であった「塩の道」には、いく所か馬頭観音が祀られ、また「馬止め」「馬淵」など馬にまつわる地名も多い。馬がいかに重要な交通手段であったか、また、この「塩の道」が厳しい難所であったことも含めて伺い知ることができたのである。

文代峠を去るに当たり、峠の頂上と思しき所に「ここから香美市」の案内標識が所在無く立つところから、晩秋の風が音もなく吹け抜けてくる。

文代峠の観音様。

諸願成就、家内安全無病息災、交通安全祈願と地元の人々に手厚く祀られ、今なお四季折々の草花が絶えることなく供えられていた。（島崎則彦）



▶地場産品直販所 あぐりのさと

▶鞍掛石

▶7つの馬頭観音

## 君子方神社（クシカタ）

文代峠からくねくねと急坂を下った中西川は民家が点在し、穏やかなその山里の風景にほっとする。

西川村役場跡の下手に大きな杉に囲まれた君子方神社がある。鳥居の脇には「香我美町天然記念物・君子方神社のスギ。右左幹周りは3m以上、高さは約30m」とある。樹齢は不明だが、雷に打たれたのか焼けこげた跡もあり、長い間ここに踏ん張っている姿に、ありがたさを感じた。

石段を登ると目に飛び込んでくるのが拝殿の柱。滝を登る鯉の両側に竜、さらには鶴の姿も。今にも飛び出しそうなほどの彫刻に、口をあけたまま見入ってしまう。

「これは登竜門を意味しちょらあね」…なるほど。急流の滝を鯉だけが登りきり、竜になったという伝説で立身出世にかかわる難関突破の意味。

子どもを持つわたしたちは「拝んじょかないかん！」と思わず手を合わせた。

「登竜門」の裏側には、菊の紋もひっそり、しかし、しっかりと彫り込まれているのが印象的だった。（久保きみ）

## あぐりのさと周辺

下組地区の川沿いには田舎の風景があった。岸辺には渋柿が鈴なり！そう、吊し柿は保存食なのだ。

山手へ行くと、7頭の手作り馬頭観音が祀られていた。地域の人が、思いを込めて一生懸命に彫ったのだろうか。

山沿いに続いていく運搬用のモノレール。小さな橋の下にはカニを捕るための梁。この山里で「人が生きるための知恵」が至る所に見受けられた。

西川小学校跡から少し下っていくと地場産品直販所「あぐりのさと」。その少し手前、県道の下に「鞍掛石」がある。昔、塩の道を往来する馬の鞍を掛けて、ひと休みさせたのだろうと言われている。なるほど、鞍を掛けるには絶好の形をしている。

今は田んぼの中にあるこの石。小さな道がこの側にも通っていたのだろうな。

先日8周年を祝った「あぐりのさと」は現在の「鞍掛石」なのかもね。（田中たい子）

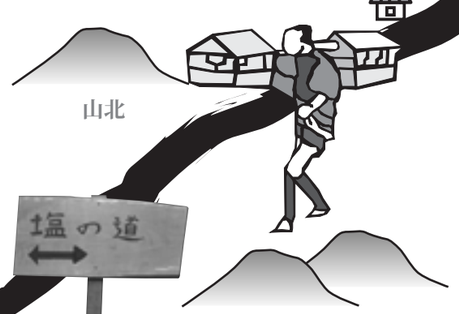
## 宗我（曽我）神社

宗我神社は岩田橋の南にあります。中ノ村宗我にあったものを、大正3年現在地に移しました。由来は古く、弘法大師のつえ跡の石もあります。

神社の横の小道は赤岡の主要道で恵日寺への道標石もあり、その先、山北川には改修まで、歩幅に合わせて飛び石があり、昭和座跡の方へ。その北には宗我神社跡の石碑、上流の山北口橋の下流（富家ぜき辺り）にも飛び石があり、そこから安岡家（文化財）へも道がつながっていたのでしょう。

近くの西内繁子さん（95歳）によると、神社境内の東に大きな松があり、少し高い所に穴があって、子どもが入って遊んだとか。昭和のはじめ、橋の北側には、小屋があり、数台の人力車が客待ちをしていたそうです。また天秤棒を担ぎ女性の行商が「いおはいらんかね」と富家辺りまで行き、しば木や竹の皮と交換。後日それを草履に編んできた。

やがて天秤が小さな手押車や大八車・リヤカーへ。道の幅も場所も時代とともに変っていったと懐かしそうに話してくれました。（十萬眞明）



▶宗我神社へ

▶庭先に集められた墓石

▶赤岡町には、古い蔵が残る

塩の道のルートはたくさんあります。次回は香南市最北の舞川地区で聞いた話を紹介します。